院 長

鬼塚 俊明(おにつか としあき)

略歴

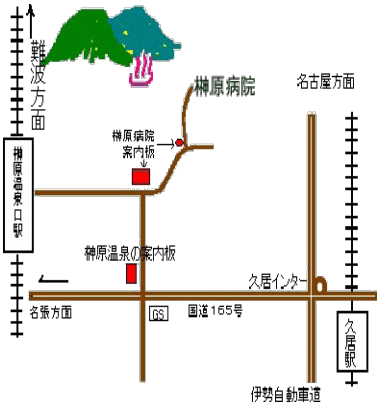
1991年 九州大学医学部卒、九州大学精神科神経科入局
2000年 米国ハーバード大学医学部精神科研究員
2004年 九州大学病院精神科神経科助教
2008年 九州大学病院精神科神経科講師
2015年 九州大学大学院医学研究院精神病態医学(精神科神経科)准教授
2021年 九州大学大学院医学研究院神経画像解析学教授
2023年 国立病院機構榊原病院特命副院長を経て、院長就任

診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症専門外来
- こころのリスク外来

病床数 175床

精神科病棟	１５７床
医療観察法	１８床
強度行動障害ユニット	



電車・バス／ 近鉄久居駅下車 三交バス(車庫前行き)約30分

自動車／ 久居インターより約20分

マイクロバス／久居駅より直通バス(約25分)

病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

モンゴル国からの視察団来院

心理療法室長 壁屋 康洋

2024年2月28日、モンゴル国より、国立精神保健センター所長、依存症治療センター所長、モンゴル裁判所判決総執行機関医局長ら12名が当院の視察に訪れました。モンゴル国では薬物依存症に対して「回復」という概念が浸透しておらず、医療を含む回復支援が行われてきませんでした。モンゴル国の支援者から依頼を受けた三重ダルク市川代表が4年前から取り組みを始め、昨年のモンゴル国会説明を経て、今回の訪日が実現しました。

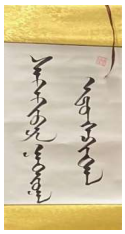
同日は病棟見学の後、日蒙依存症セミナーとして当院の薬物依存症治療の説明を行ったほか、治療の説明を行ったほか、三重刑務所、三重県こころの健康センター、三重ダルクの各機関から取り組みを紹介し、ディスカッションを行いました。

当院からは、厚生労働省による依存症対策総合支援事業の中で、全国拠点機関の下、三重県での依存症治療拠点機関を当院が担っていること、さらに三重県の依存症専門医療機関は4施設あるが、薬物依存症への専門医療を提供しているのは当院だけであることを伝え、当院の外来治療・入院等のIT整備を行っていく予定です。治療の概要を紹介しました。三重県こころの健康センターから依存症対策事業などの紹介、三重刑務所からは刑務所内での薬物事犯に対する改善指導の取り組みが紹介され、三重ダルクからは回復のためのダルク内での取り組みに加え、ダルクが各機関をつなぐ役割をしていることを紹介されました。

モンゴル国の方からは医療費の負担や、責任機関等の質問が出されました。

さいがた医療センター佐久間寛之院長から、日本の医療費は健康保険と3割の自己負担で賄われていること、精神科病院の大部分は民間病院であり、国立から移行した国立病院機構は自主採算を求められるが政策医療を担っている事などを説明されました。

他国との比較をしながら、日本の制度の中で刑務所・保護観察所・自助グループと医療の関係を見直し、強めていく良い機会になりました。この機に日本の薬物依存症治療に取り組む医療機関を代表して紹介できたことをたいへん嬉しく思います。



掛け軸にはモンゴル語で「Sakakibara National Hospital」と書かれているそうです。外来待合室に展示しておりますので、ぜひご覧ください。

〒514-1292 三重県津市榊原町777番地
https://sakakibara.hosp.go.jp/

代表電話 TEL 059-252-0211 FAX 059-252-0411
地域医療連携室 TEL 059-252-0660 FAX 059-252-0280
訪問看護ステーションゆうはぁと TEL 059-252-0122 FAX 059-252-0126

地域医療連携室だより

＜医療福祉相談のご案内＞

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

ゆうはぁと訪問看護ステーション

令和元年６月に「ゆうはぁと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはぁと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにこころで支えます。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成２６年１０月に１例目の投与を開始し、令和６年３月までに全症例は１４９例となりました。新規導入は３月は２例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。

認知症医療、こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は８０歳以上の超高齢の方と５０～６０代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD)に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。

デイ・ケア案内

デイケアは南2階で月、火、水、金の9：30から15：30まで活動しています。

皆さまそれぞれの目標に合わせて、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したり、リフレッシュしたりと、活動に取り組んでおられます。

デイケアを利用される方は、1日あたり10人～20人です。大勢でにぎやかに過ごすのが好きな方はホールで過ごし、静かな場所を好む方は個室で過ごすというように、皆さま上手にデイケア内を使い分けておられます。

プログラムは、午前と午後にそれぞれ2つ以上実施していますので、好みの活動を選んで参加いただきます。散歩、運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーション、SST、カラオケ、アート、調理等様々なプログラムがあり、それぞれの方のニードに合わせて活動いただいています。

病院のホームページや、外来に月間プログラムがありますので、どうぞご覧ください。

デイケアにあるいろいろなお花たち

ニンジンケーキを作りました。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。

栄養コラム

災害非常食の水について

能登半島地震から3カ月経過しましたが、復興に目処が立たない状況です。こんな時に重要になるのが非常食です。以前は味もよくなく不評でしたが、アルファ米の改良も著しく、味もよく調理方法も簡潔になってます。その他重要なところではミネラルウォーターです。

ミネラルウォーターは、現在は5年の賞味期限の商品が主力になりつつあります。そこで気になる賞味期限ですが農林水産省では、「賞味期限は、定められた方法により保存した場合において、期待される全ての品質の保持が十分に可能であると認められる期限であり、飲料水は賞味期限を過ぎても一律に飲めないものではありません」と記載されてます。ミネラルウォーターは災害時にとても重宝されます。賞味期限が過ぎても未開封であれば外部から雑菌が入る心配はほとんどありませんが、なるべく期限内に飲むことをおすすめいたします。